



目次

- 改訂情報
- はじめに
 - 本書の目的
 - 前提条件
 - 対象読者
 - 用語解説
- インストール前に
 - 全体のインストール作業の流れ
 - 必要なライセンス
 - インストール前に必要な確認事項
 - 正常に動作しない環境
 - 注意事項
 - サーバ構成について
 - 運用マシン構成例
- インストール・環境設定
 - PDF変換サーバ (Windows) での作業
 - Javaランタイムのインストール
 - Tomcat のインストール
 - PDFコンバータXP のインストール
 - PDFオートコンバータEX のインストール
 - PDFオートコンバータEX の環境設定
 - 環境変数の設定
 - warファイルのデプロイ
 - 設定ファイルの編集
 - Tomcat の起動
 - intra-mart Accel Platform での作業
 - プロジェクトの作成とモジュールの選択
 - 設定ファイルの編集
- アンインストール
 - PDF変換サーバ (Windows) での作業
 - 作業前に...
 - Javaランタイムのアンインストール
 - Tomcat のアンインストール
 - PDFコンバータXP のアンインストール
 - PDFオートコンバータEX のインストール
 - 環境変数の削除
 - intra-mart Accel Platform での作業
 - 作業前に...
 - IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の削除
- 既存環境のバージョンアップ
 - PDF変換サーバ (Windows) での作業 (既存環境のバージョンアップ)
 - warファイルの配置
 - PDFコンバータXP の再インストール
 - PDFオートコンバータEX の再インストール
 - PDFオートコンバータEX の環境設定
 - 環境変数の設定
 - warファイルのデプロイ
 - 設定ファイルの編集
 - Tomcat の起動

- [intra-mart Accel Platform](#) での作業（既存環境のバージョンアップ）
 - プロジェクトの再作成とモジュールの選択
 - 設定ファイルの編集
- [補足] WSDLファイル

変更年月日	変更内容
2013-10-11	初版
2014-04-01	第2版 warファイルのデプロイ 手順を修正しました。
2014-12-01	第3版 ドキュメント全般 Windows Server 2012 R2 向けの記述を追加しました。
2015-07-01	第4版 設定ファイルの編集、サーバ再起動の記述を追加しました。
2016-08-01	第5版 PDFオートコンバータEXに関する注意事項を追加しました。
2016-12-01	第6版 既存環境からのバージョンアップ手順を追加しました。
2017-08-01	第7版 PDFオートコンバータEXインストール・ガイドを更新しました。

はじめに

目次

- 本書の目的
- 前提条件
- 対象読者
- 用語解説

本書の目的

本書では IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のセットアップ手順について説明します。



コラム

旧バージョンがインストール済みの場合は、旧バージョンをアンインストール後に、本バージョンをインストールしてください。

前提条件

以下のドキュメントに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。

- 「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform リリースノート」
- 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」
- 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」

対象読者

以下の利用者を対象としています。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のセットアップを行われる方

用語解説

- Resin をインストールしたディレクトリを %RESIN_HOME% と略します。
- Apache HTTP Server をインストールしたディレクトリを %APACHE_HOME% と略します。
- Storage として使用するディレクトリを %PUBLIC_STORAGE_PATH% と略します。
- Webサーバ利用時の静的コンテンツを配置するディレクトリを %WEB_PATH% と略します。
- Tomcatをインストールしたディレクトリを %CATALINA_HOME% と略します。

目次

- 全体のインストール作業の流れ
- 必要なライセンス
- インストール前に必要な確認事項
- 正常に動作しない環境
- 注意事項
- サーバ構成について
- 運用マシン構成例

全体のインストール作業の流れ

旧バージョンの IM-PDFAutoConverter for Accel Platform がインストールされている場合は、作業前に旧バージョンを必ず削除してください。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、intra-mart Accel Platform とは別に、PDF変換サーバ（Windows）を用意して運用することを想定しています。

そのため、インストール作業には、大きく分けて

- PDF変換サーバ（Windows）でのインストール作業
- intra-mart Accel Platform でのインストール作業

の2つの作業が必要になります。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の実際のインストール作業は以下の手順でおこないますので、下記の順番を理解した上で作業を進めてください。

- PDF変換サーバ（Windows）でのインストール作業
 1. Javaランタイムのインストール
 2. Tomcatのインストール
 3. PDFコンバータXP のインストール
 4. PDFオートコンバータEX のインストール
 5. PDFオートコンバータEX の環境設定
 6. 環境変数の設定
 7. warファイルのデプロイ
 8. Tomcatの起動
- intra-mart Accel Platform サーバでのインストール作業
 1. jarファイルの配置
 2. 設定ファイルの配置
 3. 設定ファイルの編集
 4. サンプルの実行

付属のサンプルプログラムが正常に動作することを確認し、インストール作業は完了です。

必要なライセンス

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform をご利用いただくには、以下3つのライセンスが必要になります。各製品のインストールの際にライセンスを入力してください。

ライセンスが未入力の状態では動作しませんのでご注意ください。

- PDFコンバータXP のライセンス
- PDFオートコンバータEX のライセンス
- PDFオートコンバータEX (Java用インターフェース) のライセンス

インストール前に必要な確認事項

インストール前に、必ず以下を設定・確認をしてください。

- OSのビット数と、Microsoft Officeのビット数は必ず一致させてください。OSが64bitの場合は、Microsoft Officeについても64bit版を必ずインストールしてください（Officeのインストールメディア内にインストーラが同梱されています）。
- PDFコンバータXP Ver.4.4以上を必ずインストールしてください。PDFコンバータXP Ver4.4 未満のバージョンでは動作しません。PDFコンバータXP のインストール方法は PDFコンバータXP インストールマニュアルを参照ください。
- (IM-PDFAutoConverter for Accel Platform には PDFオートコンバータEX / PDFコンバータXP 各1ライセンスが含まれています。)
- OSとOfficeの最新のパッチをインストールしてください。
- 必ずインストールするマシン自体にアドミニストレータ権限のあるユーザでログインしてください。ネットワークのアドミニストレータ権限があっても、そのマシン自体にその権限がないことも考えられます。
- PDFオートコンバータEX がインストールされているサーバのOfficeのバージョンを変更したい場合、以下にご確認ください。（例 Office2003を使用していたがOffice2007に変更する等）

●重要●

- 必ず古いMicrosoft Officeをアンインストールしてから、新しいMicrosoft Officeをインストールしてください。その際には、必ず以下の手順で作業ください。
- 古いMicrosoft Officeをアンインストール→マシンを再起動→新しいMicrosoft Officeをインストールし、そのままインストールして、マシン内にOfficeが2つある状態になってしまうと、その後古いOfficeをアンインストールしても、レジストリ等がおかしくなってしまう、正常にPDF変換できなくなります。一度そうなると、OSを入れなおす必要が出てきますので、ご注意ください（一度すべてのOfficeをアンインストール+フォルダ削除+レジストリ削除すれば問題解消の余地はありますが、非常に難易度が高いのでお勧めできません）。
- その他インストール前に必要な確認事項については、各製品マニュアルを参照ください。
- Tomcatのポート番号は Resinサーバ のポート番号と衝突しないようにしてください。Tomcatのポート番号は %CATALINA_HOME%/conf/server.xml にて設定できます。

正常に動作しない環境

以下の環境では正常に動作しませんのでご注意ください。

- PDFオートコンバータEX を、Citrix XenApp等のシンクライアント専用サーバにインストールすることは止めてください。クライアントがCitrix XenAppを使用しているだけで問題が起きる訳ではありません。PDFオートコンバータEX のインストールしているサーバと、シンクライアント (Citrix XenApp) 専用サーバが別のサーバであれば、問題ありません。
- リモートデスクトップや、それに類似した製品での PDFオートコンバータEX インストールサーバへのアクセスに関しては、メンテナンス用にまれにアクセスするのであれば、問題ありません。常時アクセスは止めてください。
- その他正常に動作しない環境については、各製品マニュアルを参照ください。

注意事項

以下を事前にご確認ください。

- 一太郎はインストール時、IMEとATOKが悪影響を及ぼす場合もありますので、必ず一太郎変換専用サーバとしてご使用頂くことを推奨いたします。
- 当社製品にメモリリークがないことは確認しておりますが、Windowsのアプリケーション (Office等) は、少しずつごみのようなものができてメモリをリーク(使用)していきます。変換頻度によりますが、1週間に1回は、最低でも月に1回のマシンの再起動を推奨いたします。

- 異なる変換方法（文書管理とのFTPバッチ変換をしながら、別処理をしてJavaAPIを呼び出す等）を同時に動作させることはサポートしません。
- ウイルスソフトによっては、変換時にファイルを掴むものがあり、変換用フォルダをウイルスチェックから外していただく必要があるケースもあります。
- PDF変換サーバ（Windows）は、Windowsマシン上に構築する必要があります。
- intra-mart Accel Platform と|common_pdfserver| で使用するJDKのバージョンは一致させてください。異なるJDKのバージョンでは正常に動作しません。
- PDF変換サーバ（Windows）は、単独で動作可能であり、intra-mart Accel Platform がインストールされている必要はありません。
- PDF変換サーバ（Windows）は、複数台用意して分散環境として使用可能です。
- PDF変換処理はCPU負荷が高い処理です。WEBサーバ、DBサーバ等との併用は推奨しません。
- PDF変換サーバ（Windows）には、変換対象ファイルを開くためのアプリケーションをインストールする必要があります。
例） ExcelファイルをPDFファイルに変換するためには、PDF変換サーバ（Windows）にExcelをインストールする必要があります。
- 同時に大量のPDF変換を行う場合は、PDF変換サーバ（Windows）のタイムアウトにご注意ください。大量のPDF変換（同時に200件以上）が想定される場合は、PDF変換処理をキューで管理し順番に処理する等、上位アプリケーション側での対応をご検討ください。PDF変換サーバ（Windows）でのタイムアウトの設定については、添付のAPIリストをご参照ください。
- その他注意事項については、各製品マニュアルを参照ください。
- [重要PDFパスワード付与に関する注意事項](#)
- [タブレットや携帯端末においてPDFファイルを表示する際の注意点](#)

サーバ構成について

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、intra-mart Accel Platform と PDF変換サーバ（Windows）上で動作するモジュールとなります。

以下に、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の基本的なシステム構成を示します。

- 基本構成

運用マシン構成例

- マシン構成例 (1) - iAP 1台（Windows）、PDF変換サーバ 1台（Windows）
intra-mart Accel Platform サーバ（Windows）1台と、PDF変換サーバ（Windows）1台で運用するケースです。
- マシン構成例 (2) - iAP 1台（Linux）、PDF変換サーバ 1台（Windows）
intra-mart Accel Platform サーバ1台（Linux）と、PDF変換サーバ（Windows）1台で運用するケースです。
- マシン構成例 (3) - 分散環境、iAP 1台（Linux）、PDF変換サーバ 2台（Windows）
intra-mart Accel Platform サーバ（Linux）1台と、PDF変換サーバ（Windows）2台で運用するケースです。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のセットアップに必要な以下のインストールおよび設定を行います。

PDF変換サーバ (Windows) での作業

PDF変換サーバ (Windows) での作業内容を説明します。

PDF変換サーバ (Windows) を複数台 用意する場合は、各 PDF変換サーバ (Windows) に以下の作業を実施してください。

目次

- [Javaランタイムのインストール](#)
- [Tomcat のインストール](#)
- [PDFコンバータXP のインストール](#)
- [PDFオートコンバータEX のインストール](#)
- [PDFオートコンバータEX の環境設定](#)
- [環境変数の設定](#)
- [warファイルのデプロイ](#)
- [設定ファイルの編集](#)
- [Tomcat の起動](#)

Javaランタイムのインストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
以下は参考としてJDK.Ver.7.x の前提で記述しています。基本は intra-mart Accel Platform で使用するJDKのバージョンと合わせてください。
2. Javaランタイムをダウンロードします。Javaランタイムのインストーラは、オラクル社のサイトからダウンロードできます。
<http://java.com/ja/download/> (2016年7月 現在)
3. ダウンロードしたインストーラから、インストールを行います。インストールに関する詳細は、オラクル社のサイトを参照してください。
4. インストール完了後に、コマンドラインに以下を入力しリターンキーを押します。

```
> java -version
```

5. コマンドラインにJavaのバージョン情報が表示されたら、インストールは成功です。

Tomcat のインストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
以下は参考としてTomcat.Ver.7.x の前提で記述しています。
2. Tomcatのインストーラをダウンロードします。
<http://tomcat.apache.org/> (2014年12月 現在)
3. ダウンロードしたインストーラから、インストールを行います。
インストールに関する詳細は、該当ドキュメントを参照してください。
4. 各サーバの環境に合わせて、Tomcatを適宜 設定してください。
5. Tomcatのポート番号は Resinサーバ のポート番号と衝突しないようにしてください。
Tomcatのポート番号は %CATALINA_HOME%/conf/server.xml にて設定できます。



コラム

Tomcatは、Ver.7.x / 8.x で検証しています。他のアプリケーションサーバ上で稼働させる場合は、個別に営業までご相談ください。

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」の「PDFコンバータXP のインストール」に沿って、インストールしてください。
3. OSの再起動が必要な場合は、再起動してください。

PDFオートコンバータEX のインストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」の「PDFオートコンバータEX のインストール」に沿って、インストールしてください。
32bit版、64bit版でインストーラが異なりますので注意してください。
3. OSの再起動が必要な場合は、再起動してください。



注意

Windows7 / Windows Server 2008 (以降のOS含む) では、セキュリティが強化されております。結果、「Program Files」以下にインストールされたプログラムのファイルアクセスが制限されるケースあります。PDFオートコンバータEX のインストール先に、「Program Files」以下は避けてください。

(インストール先の例) C:/tool/AutoConverterEX



注意

異なるバージョンの、PDFオートコンバータEX がインストールされている環境では、インストール前に以下のフォルダを削除してください。

C:YSS_SettingsAuto Converter EX

上記フォルダは隠しフォルダとなっているため、フォルダ名を直接入力し削除ください。

PDFオートコンバータEX の環境設定

1. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」の以下の章の設定をしてください。
 - 「【重要】WindowsServer xxxxx における必須の設定」
 - 「共通で設定したほうが良い事項 (推奨)」
 - 「アプリごとの変換に必要な設定 (必須)」

環境変数の設定

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 以下の環境変数を設定します。
環境変数は、Tomcatの起動ユーザから参照できるよう設定してください。
IM-PDFCoordinator/intra-mart AccelDocument SecureDownloadOption を同じサーバにインストールしている場合は、環境変数の順番がPDFメイクアップ、PDFオートコンバータEX となるようご注意ください。
順番を間違えますと動作しません。
環境変数は、通常であればシステム環境変数に設定いただければ問題ありません。

環境変数名	設定内容
PATH	% PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ%/bin

3. 以下を設定してください。

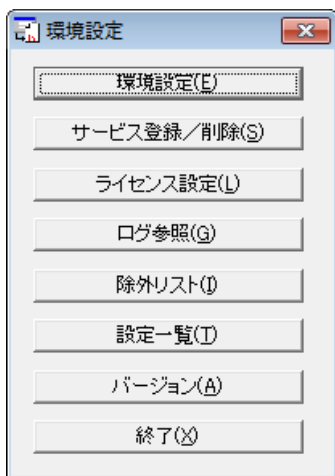
Tomcat の共通libフォルダ (%CATALINA_HOME%/libが一般的) に、autoex.jar ファイルを配置します。
autoex.jar ファイルは、CD-ROMの imart/clientフォルダにあります。

場所	ファイル名
%CATALINA_HOME%/lib	autoex.jar

4. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

```
> yexset
```

5. 以下の画面が表示されれば環境変数の設定は完了です。



コラム

環境変数設定後は、必ず Resin をプロセスごと再起動してください。

warファイルのデプロイ

- CD-ROMの imart/server フォルダを開き、autoexsoap.war ファイルを、TomcatのWEBアプリケーション配置ディレクトリにコピーします。
通常は %CATALINA_HOME%/webapps です。
- autoexsoap.war ファイルを、axis2.war にリネームします。

コラム

複数台の PDF変換サーバ (Windows) を用意している場合は、すべての PDF変換サーバ (Windows) に対して実施してください。

コラム

Tomcat 7.x / 8.x にて検証しています。

注意

warファイルのデプロイには、WEBアプリケーションサーバ (Tomcat等) が停止している必要があります。

設定ファイルの編集

- axis2.xml ファイルを環境に合わせて修正してください。

ファイル	場所
axis2.xml	%CATALINA_HOME%/webapps/axis2/WEB-INF/conf

attachmentDIR は、クライアントからアップロードされるファイルの一時保存先になります。必ず指定する必要があります。

```
<axisconfig name="AxisJava2.0">
  ~~~~~省略~~~~~
  <!--Uncomment if you want to enable file caching for attachments -->
  <parameter name="cacheAttachments">true</parameter>
  <!-- 添付ファイル (クライアントからアップロードされるファイル) の一時保存先です。必ず指定してください -->
  <parameter name="attachmentDIR">C:\tmp</parameter>
  <parameter name="sizeThreshold">4000</parameter>
  ~~~~~省略~~~~~
</axisconfig>
```

- 修正後にサーバを再起動してください。
- 以上で作業は完了です。

Tomcat の起動

- Tomcatを起動してください。TomcatはWindowsにログインし手動起動をお願いいたします。どうしてもサービス起動が必要な際には、個別にご相談ください。



コラム

Tomcat起動中のログに異常 (Exceptionなど...) がないことを確認ください。



注意

環境設定は、Tomcatの起動ユーザで行ってください。環境設定を行ったユーザと、Tomcatの起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

intra-mart Accel Platform での作業

intra-mart Accel Platform での作業内容を説明します。

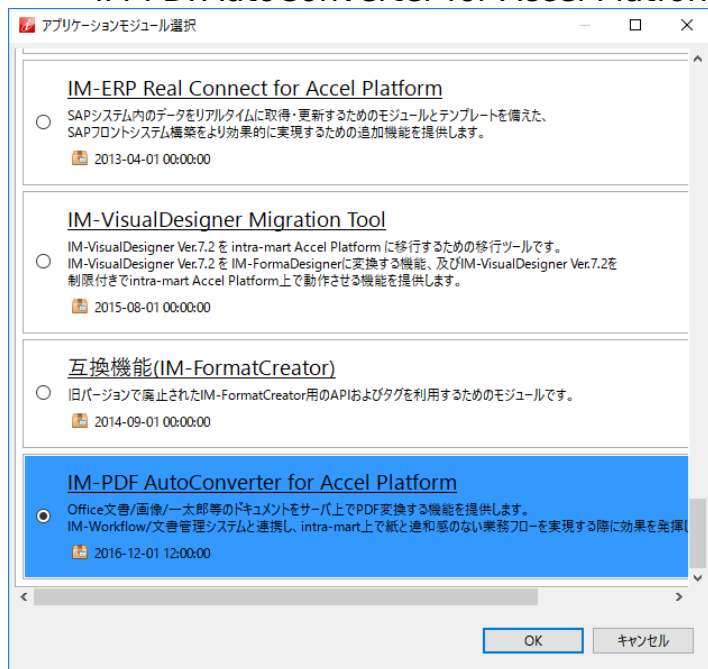
intra-mart Accel Platform を複数台 用意する場合は、各 intra-mart Accel Platform に以下の作業を実施してください。

目次

- プロジェクトの作成とモジュールの選択
- 設定ファイルの編集

プロジェクトの作成とモジュールの選択

- 「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」にしたがって、プロジェクトを用意します。
プロジェクトの作業手順の詳細については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」を参照ください。
- IM-Juggling で利用するアプリケーションを選択する際に、「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」を指定します。
- WARファイルを生成しデプロイします。
WARファイルの生成及びデプロイの手順については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」を参照してください。



注意

既に IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を導入中で、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 8.0.6 以降にバージョンアップする場合には、IM-Juggling のユーザモジュールから IM-PDFCoordinator for Accel Platform を削除してください。



コラム

アプリケーションは後で追加することもできます。追加する方法は、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「アプリケーションの追加」を参照してください。

設定ファイルの編集

1. intra-mart Accel Platform に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. autoex-config.xml ファイルを環境に合わせて修正してください。

ファイル	場所
autoex-config.xml	%RESIN_HOME%/webapps/{アプリケーション名}/WEB-INF/classes

以下は、PDF変換サーバ (Windows) 3台で運用する場合のサンプルです。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
  <!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
  <properties>
    <comment></comment>

    <!--

=====

      クライアントモジュールの設定

=====

-->
<!-- 変換対象の拡張子 -->
<entry key="autoex.file.suffix">doc,docx,xls,xlsx,ppt,pptx,tif,tiff,xdw,xbd,bmp,jpg,png,gif</entry>

<!--

=====

      サーバモジュールの設定

=====

-->
<!-- PDF変換サーバの台数 -->
<entry key="autoex.num">3</entry>

<!-- 1台目のサーバの設定 -->
<!-- PDF変換サーバのIPアドレスまたはホスト名 + ポート番号 -->
<entry key="autoex.1.host">192.168.0.1:8080</entry>
<entry key="autoex.2.host">192.168.0.2:8080</entry>
<entry key="autoex.3.host">192.168.0.2:8080</entry>
</properties>

```

3. 修正後にサーバを再起動してください。
4. 以上で作業は完了です。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform をアンインストールします。

PDF変換サーバ (Windows) での作業

PDF変換サーバ (Windows) での作業内容を説明します。

PDF変換サーバ (Windows) を複数台 利用している場合は、各 PDF変換サーバ (Windows) に以下の作業を実施してください。
作業前に、intra-mart Accel Platform および、Tomcat を必ず停止してください。

目次

- 作業前に...
- Javaランタイムのアンインストール
- Tomcat のアンインストール
- PDFコンバータXP のアンインストール
- PDFオートコンバータEX のインストール
- 環境変数の削除

作業前に...

ResinおよびTomcatが停止していること、warファイルがアンデプロイされている必要があります。

Javaランタイムのアンインストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. コントロールパネルからプログラムの追加と削除を開き、Javaランタイムをアンインストールします。

Tomcat のアンインストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. コントロールパネルからプログラムの追加と削除を開き、Tomcatをアンインストールします。
インストーラではなく、フォルダを解凍する方法でインストールしている場合は、該当フォルダを削除してください。

PDFコンバータXP のアンインストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFコンバータXP インストール・ガイド](#)」の「アンインストールの方法」に沿って、アンインストールしてください。
3. OSの再起動が必要な場合は、再起動してください。

PDFオートコンバータEX のインストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 「[PDFオートコンバータEX インストール・ガイド](#)」の「アンインストールの方法」に沿って、インストールしてください。
3. OSの再起動が必要な場合は、再起動してください。

環境変数の削除

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 以下の環境変数を削除します。

環境変数名	設定内容
PATH	% PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ%/bin



コラム

複数台の PDF変換サーバ (Windows) を利用している場合は、すべての PDF変換サーバ (Windows) に対して実施してください。



注意

上記作業には、Tomcatが停止している必要があります。

intra-mart Accel Platform での作業

intra-mart Accel Platform での作業内容を説明します。

intra-mart Accel Platform を複数台 利用している場合は、各 intra-mart Accel Platform に以下の作業を実施してください。

作業前に、intra-mart Accel Platform および、Tomcat を必ず停止してください。

目次

- [作業前に...](#)
- [IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の削除](#)

作業前に...

ResinおよびTomcatが停止していることを確認ください。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の削除

1. IM-Jugglingの「アプリケーション」タブで、「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」のチェックマークを外して、warファイルを作成します。
2. 作成したwarファイルを、Resinでデプロイします。



コラム

手順の詳細は、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「intra-mart Accel Platform 構成ファイルの作成」および、「intra-mart Accel Platform の起動・停止」を参照してください。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のバージョンアップに必要な作業を行います。

PDF変換サーバ (Windows) での作業 (既存環境のバージョンアップ)

PDF変換サーバ (Windows) での作業内容を説明します。

PDF変換サーバ (Windows) を複数台用意している場合は、各 PDF変換サーバ (Windows) に以下の作業を実施してください。

目次

- warファイルの配置
- PDFコンバータXP の再インストール
- PDFオートコンバータEX の再インストール
- PDFオートコンバータEX の環境設定
- 環境変数の設定
- warファイルのデプロイ
- 設定ファイルの編集
- Tomcat の起動

warファイルの配置

- IM-Juggling で作成した warファイル を次のディレクトリにコピーします。

```
%RESIN_HOME%/resin-pro-4.0.31/webapps
```

PDFコンバータXP の再インストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. コントロールパネルのプログラムの追加と削除から、PDFコンバータXP をアンインストールしてください。
3. 「**PDFコンバータXP インストール・ガイド**」の「PDFコンバータXP のインストール」の説明に沿って、PDFコンバータXP をインストールしてください。
32bit版、64bit版でインストーラが異なりますので注意してください。
4. OSの再起動が必要な場合は、再起動してください。

PDFオートコンバータEX の再インストール

1. PDF変換サーバ (Windows) に管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. コントロールパネルのプログラムの追加と削除から、PDFオートコンバータEX をアンインストールしてください。
3. 「**PDFオートコンバータEX インストール・ガイド**」の「PDFオートコンバータEX のインストール」の説明に沿って、PDFオートコンバータEX をインストールしてください。
32bit版、64bit版でインストーラが異なりますので注意してください。
4. OSの再起動が必要な場合は、再起動してください。



注意

Windows7 / Windows Server 2008 (以降のOS含む) では、セキュリティが強化されております。結果、「Program Files」以下にインストールされたプログラムのファイルアクセスが制限されるケースあります。PDFオートコンバータEX のインストール先に、「Program Files」以下は避けてください。

(インストール先の例) C:/tool/AutoConverterEX

**注意**

異なるバージョンの、PDFオートコンバータEX がインストールされている環境では、インストール前に以下のフォルダを削除してください。

C:\YSS_SettingsAuto Converter EX

上記フォルダは隠しフォルダとなっているため、フォルダ名を直接入力し削除ください。

PDFオートコンバータEX の環境設定

1. 「**PDFオートコンバータEX インストール・ガイド**」の以下の章の設定をしてください。
 - 「【重要】WindowsServer xxxxx における必須の設定」
 - 「共通で設定したほうが良い事項（推奨）」
 - 「アプリごとの変換に必要な設定（必須）」

**注意**

再インストール先のフォルダは、アンインストール前と同じフォルダとすることを推奨します。アンインストール前と別のフォルダにインストールする場合は、環境変数の設定が必要となります。

環境変数の設定

1. PDF変換サーバ（Windows）に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. 以下の環境変数を設定します。
環境変数は、Tomcatの起動ユーザから参照できるよう設定してください。
IM-PDFCoordinator/intra-mart AccelDocument SecureDownloadOption を同じサーバにインストールしている場合は、環境変数の順番がPDFメイクアップ、PDFオートコンバータEX となるようご注意ください。
順番を間違えますと動作しません。
環境変数は、通常であればシステム環境変数に設定いただければ問題ありません。

環境変数名	設定内容
PATH	% PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ%\bin

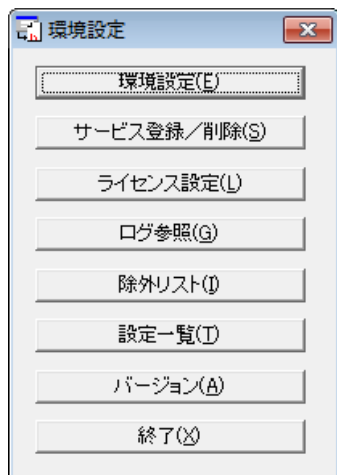
3. 以下を設定してください。
Tomcat の共通libフォルダ（%CATALINA_HOME%\libが一般的）に、autoex.jar ファイルを配置します。
autoex.jar ファイルは、CD-ROMの imart/clientフォルダにあります。

場所	ファイル名
%CATALINA_HOME%\lib	autoex.jar

4. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

```
> yexset
```

5. 以下の画面が表示されれば環境変数の設定は完了です。



i コラム

環境変数設定後は、必ず Resin をプロセスごと再起動してください。

warファイルのデプロイ

1. CD-ROMの imart/server フォルダを開き、autoexsoap.war ファイルを、TomcatのWEBアプリケーション配置ディレクトリにコピーします。
通常は %CATALINA_HOME%/webapps です。
2. autoexsoap.war ファイルを、axis2.war にリネームします。

i コラム

複数台の PDF変換サーバ（Windows）を用意している場合は、すべての PDF変換サーバ（Windows）に対して実施してください。

i コラム

Tomcat 7.x / 8.x にて検証しています。

! 注意

warファイルのデプロイには、WEBアプリケーションサーバ（Tomcat等）が停止している必要があります。

設定ファイルの編集

1. axis2.xml ファイルを環境に合わせて修正してください。

ファイル	場所
axis2.xml	%CATALINA_HOME%/webapps/axis2/WEB-INF/conf

attachmentDIR は、クライアントからアップロードされるファイルの一時保存先になります。必ず指定する必要があります。

```
<axisconfig name="AxisJava2.0">
  ~~~~~省略~~~~~
  <!--Uncomment if you want to enable file caching for attachments -->
  <parameter name="cacheAttachments">true</parameter>
  <!-- 添付ファイル（クライアントからアップロードされるファイル）の一時保存先です。必ず指定してください -->
  <parameter name="attachmentDIR">C:\tmp</parameter>
  <parameter name="sizeThreshold">4000</parameter>
  ~~~~~省略~~~~~
</axisconfig>
```

- 修正後にサーバを再起動してください。
- 以上で作業は完了です。

Tomcat の起動

- Tomcatを起動してください。TomcatはWindowsにログインし手動起動をお願いいたします。どうしてもサービス起動が必要な際には、個別にご相談ください。

コラム

Tomcat起動中のログに異常（Exceptionなど...）がないことを確認ください。

注意

環境設定は、Tomcatの起動ユーザで行ってください。環境設定を行ったユーザと、Tomcatの起動ユーザが異なる場合、正常に動作しません。

intra-mart Accel Platform での作業（既存環境のバージョンアップ）

intra-mart Accel Platform での作業内容を説明します。

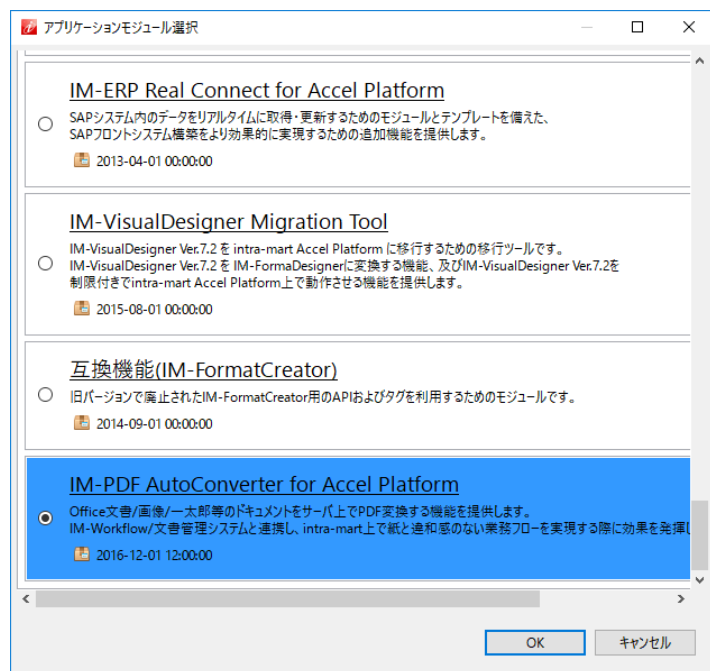
intra-mart Accel Platform を複数台 用意する場合は、各 intra-mart Accel Platform に以下の作業を実施してください。

目次

- プロジェクトの再作成とモジュールの選択
- 設定ファイルの編集

プロジェクトの再作成とモジュールの選択

- 「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」にしたがって、プロジェクトを用意します。
プロジェクトの作業手順の詳細については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」を参照ください。
- IM-Juggling で利用するアプリケーションを選択する際に、「IM-PDFAutoConverter for Accel Platform」を指定します。
- WARファイルを生成しデプロイします。
WARファイルの生成及びデプロイの手順については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」を参照してください。



**コラム**

アプリケーションは後で追加することもできます。追加する方法は、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「アプリケーションの追加」を参照してください。

設定ファイルの編集

1. intra-mart Accel Platform に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. autoex-config.xml ファイルを環境に合わせて修正してください。

ファイル	場所
autoex-config.xml	%RESIN_HOME%/webapps/{アプリケーション名}/WEB-INF/classes

以下は、PDF変換サーバ（Windows）3台で運用する場合のサンプルです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <comment></comment>

  <!--

=====

クライアントモジュールの設定

=====

-->
<!-- 変換対象の拡張子 -->
<entry key="autoex.file.suffix">doc,docx,xls,xlsx,ppt,pptx,tif,tiff,xdw,xbd,bmp,jpg,png,gif</entry>

<!--

=====

サーバモジュールの設定

=====

-->
<!-- PDF変換サーバの台数 -->
<entry key="autoex.num">3</entry>

<!-- 1台目のサーバの設定 -->
<!-- PDF変換サーバのIPアドレスまたはホスト名 + ポート番号 -->
<entry key="autoex.1.host">192.168.0.1:8080</entry>
<entry key="autoex.2.host">192.168.0.2:8080</entry>
<entry key="autoex.3.host">192.168.0.2:8080</entry>
</properties>
```

3. 修正後にサーバを再起動してください。
4. 以上で作業は完了です。

以下に WSDL ファイルを記載します。ご利用ください。

```

1  <wSDL:definitions xmlns:wSDL="http://schemas.xmlsoap.org/wSDL/" xmlns:ns1="http://org.apache.axis2/xsd"
2  xmlns:ns="http://service.soap.autoconverterex.yss" xmlns:wsaw="http://www.w3.org/2006/05/addressing/wSDL"
3  xmlns:http="http://schemas.xmlsoap.org/wSDL/http/" xmlns:ax21="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd"
4  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:mime="http://schemas.xmlsoap.org/wSDL/mime/"
5  xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wSDL/soap/" xmlns:soap12="http://schemas.xmlsoap.org/wSDL/soap12/"
6  targetNamespace="http://service.soap.autoconverterex.yss">
7  <wSDL:documentation>PDFAutoEXService</wSDL:documentation>
8  <wSDL:types>
9  <xs:schema attributeFormDefault="qualified" elementFormDefault="qualified"
10 targetNamespace="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd">
11 <xs:complexType name="AutoExConfig">
12 <xs:sequence>
13 <xs:element minOccurs="0" name="befTimeoutSec" type="xs:int"/>
14 <xs:element minOccurs="0" name="docInfAndSecurity" nillable="true" type="xs:string"/>
15 <xs:element minOccurs="0" name="docInfByName" nillable="true" type="xs:string"/>
16 <xs:element minOccurs="0" name="docInfo" nillable="true" type="ax21:DocInfo"/>
17 <xs:element minOccurs="0" name="fastWebView" type="xs:boolean"/>
18 <xs:element minOccurs="0" name="folderName" nillable="true" type="xs:string"/>
19 <xs:element minOccurs="0" name="overWrite" type="xs:boolean"/>
20 <xs:element minOccurs="0" name="printerName" nillable="true" type="xs:string"/>
21 <xs:element minOccurs="0" name="securityByName" nillable="true" type="xs:string"/>
22 <xs:element minOccurs="0" name="stampName" nillable="true" type="xs:string"/>
23 <xs:element minOccurs="0" name="timeoutSec" type="xs:int"/>
24 <xs:element minOccurs="0" name="transTimeoutMSec" type="xs:int"/>
25 <xs:element minOccurs="0" name="sec128" nillable="true" type="ax21:Security128"/>
26 <xs:element minOccurs="0" name="sec40" nillable="true" type="ax21:Security40"/>
27 <xs:element minOccurs="0" name="secType" type="xs:int"/>
28 <xs:element minOccurs="0" name="srcFileSuffix" nillable="true" type="xs:string"/>
29 <xs:element minOccurs="0" name="srcfile" nillable="true" type="xs:base64Binary"/>
30 </xs:sequence>
31 </xs:complexType>
32 <xs:complexType name="DocInfo">
33 <xs:sequence>
34 <xs:element minOccurs="0" name="app" nillable="true" type="xs:string"/>
35 <xs:element minOccurs="0" name="creator" nillable="true" type="xs:string"/>
36 <xs:element minOccurs="0" name="keyword" nillable="true" type="xs:string"/>
37 <xs:element minOccurs="0" name="subTitle" nillable="true" type="xs:string"/>
38 <xs:element minOccurs="0" name="title" nillable="true" type="xs:string"/>
39 </xs:sequence>
40 </xs:complexType>
41 <xs:complexType name="Security128">
42 <xs:sequence>
43 <xs:element minOccurs="0" name="acc" type="xs:int"/>
44 <xs:element minOccurs="0" name="change" type="xs:int"/>
45 <xs:element minOccurs="0" name="copy" type="xs:int"/>
46 <xs:element minOccurs="0" name="openPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
47 <xs:element minOccurs="0" name="print" type="xs:int"/>
48 <xs:element minOccurs="0" name="securityPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
49 </xs:sequence>
50 </xs:complexType>
51 <xs:complexType name="Security40">
52 <xs:sequence>
53 <xs:element minOccurs="0" name="noAddNote" type="xs:boolean"/>
54 <xs:element minOccurs="0" name="noCopy" type="xs:boolean"/>
55 <xs:element minOccurs="0" name="noEdit" type="xs:boolean"/>
56 <xs:element minOccurs="0" name="noPrint" type="xs:boolean"/>
57 <xs:element minOccurs="0" name="openPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
58 <xs:element minOccurs="0" name="securityPassword" nillable="true" type="xs:string"/>
59 </xs:sequence>
60 </xs:complexType>
61 <xs:complexType name="AutoExResponse">
62 <xs:sequence>
63 <xs:element minOccurs="0" name="callException" type="xs:boolean"/>
64 <xs:element minOccurs="0" name="errormess" nillable="true" type="xs:string"/>
65 <xs:element minOccurs="0" name="res" nillable="true" type="xs:base64Binary"/>
66 <xs:element minOccurs="0" name="templID" type="xs:long"/>
67 </xs:sequence>
68 </xs:complexType>

```

```

69 </xs:schema>
70 <xs:schema xmlns:ax22="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd" attributeFormDefault="qualified"
71 elementFormDefault="qualified" targetNamespace="http://service.soap.autoconverterex.yss">
72 <xs:import namespace="http://config.com.soap.autoconverterex.yss/xsd"/>
73 <xs:element name="clearPDFAutoConverterEX">
74 <xs:complexType>
75 <xs:sequence>
76 <xs:element minOccurs="0" name="tempID" type="xs:long"/>
77 </xs:sequence>
78 </xs:complexType>
79 </xs:element>
80 <xs:element name="clearPDFAutoConverterEXResponse">
81 <xs:complexType>
82 <xs:sequence>
83 <xs:element minOccurs="0" name="return" type="xs:boolean"/>
84 </xs:sequence>
85 </xs:complexType>
86 </xs:element>
87 <xs:element name="isPDFAutoConverterEXResponse">
88 <xs:complexType>
89 <xs:sequence>
90 <xs:element minOccurs="0" name="return" type="xs:boolean"/>
91 </xs:sequence>
92 </xs:complexType>
93 </xs:element>
94 <xs:element name="cnvPDFAutoConverterEX">
95 <xs:complexType>
96 <xs:sequence>
97 <xs:element minOccurs="0" name="autoexconf" nillable="true" type="ax22:AutoExConfig"/>
98 </xs:sequence>
99 </xs:complexType>
100 </xs:element>
101 <xs:element name="cnvPDFAutoConverterEXResponse">
102 <xs:complexType>
103 <xs:sequence>
104 <xs:element minOccurs="0" name="return" nillable="true" type="ax22:AutoExResponse"/>
105 </xs:sequence>
106 </xs:complexType>
107 </xs:element>
108 </xs:schema>
109 </wsdl:types>
110 <wsdl:message name="clearPDFAutoConverterEXRequest">
111 <wsdl:part name="parameters" element="ns:clearPDFAutoConverterEX"/>
112 </wsdl:message>
113 <wsdl:message name="clearPDFAutoConverterEXResponse">
114 <wsdl:part name="parameters" element="ns:clearPDFAutoConverterEXResponse"/>
115 </wsdl:message>
116 <wsdl:message name="cnvPDFAutoConverterEXRequest">
117 <wsdl:part name="parameters" element="ns:cnvPDFAutoConverterEX"/>
118 </wsdl:message>
119 <wsdl:message name="cnvPDFAutoConverterEXResponse">
120 <wsdl:part name="parameters" element="ns:cnvPDFAutoConverterEXResponse"/>
121 </wsdl:message>
122 <wsdl:message name="isPDFAutoConverterEXRequest"/>
123 <wsdl:message name="isPDFAutoConverterEXResponse">
124 <wsdl:part name="parameters" element="ns:isPDFAutoConverterEXResponse"/>
125 </wsdl:message>
126 <wsdl:portType name="PDFAutoEXServicePortType">
127 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
128 <wsdl:input message="ns:clearPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:clearPDFAutoConverterEX"/>
129 <wsdl:output message="ns:clearPDFAutoConverterEXResponse"
130 wsaw:Action="urn:clearPDFAutoConverterEXResponse"/>
131 </wsdl:operation>
132 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
133 <wsdl:input message="ns:cnvPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:cnvPDFAutoConverterEX"/>
134 <wsdl:output message="ns:cnvPDFAutoConverterEXResponse"
135 wsaw:Action="urn:cnvPDFAutoConverterEXResponse"/>
136 </wsdl:operation>
137 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">

```



```

138 <wsdl:input message="ns:isPDFAutoConverterEXRequest" wsaw:Action="urn:isPDFAutoConverterEX"/>
139 <wsdl:output message="ns:isPDFAutoConverterEXResponse"
140 wsaw:Action="urn:isPDFAutoConverterEXResponse"/>
141 </wsdl:operation>
142 </wsdl:portType>
143 <wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceSoap11Binding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
144 <soap:binding transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http" style="document"/>
145 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
146 <soap:operation soapAction="urn:clearPDFAutoConverterEX" style="document"/>
147 <wsdl:input>
148 <soap:body use="literal"/>
149 </wsdl:input>
150 <wsdl:output>
151 <soap:body use="literal"/>
152 </wsdl:output>
153 </wsdl:operation>
154 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
155 <soap:operation soapAction="urn:cnvPDFAutoConverterEX" style="document"/>
156 <wsdl:input>
157 <soap:body use="literal"/>
158 </wsdl:input>
159 <wsdl:output>
160 <soap:body use="literal"/>
161 </wsdl:output>
162 </wsdl:operation>
163 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
164 <soap:operation soapAction="urn:isPDFAutoConverterEX" style="document"/>
165 <wsdl:input>
166 <soap:body use="literal"/>
167 </wsdl:input>
168 <wsdl:output>
169 <soap:body use="literal"/>
170 </wsdl:output>
171 </wsdl:operation>
172 </wsdl:binding>
173 <wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceSoap12Binding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
174 <soap12:binding transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http" style="document"/>
175 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
176 <soap12:operation soapAction="urn:clearPDFAutoConverterEX" style="document"/>
177 <wsdl:input>
178 <soap12:body use="literal"/>
179 </wsdl:input>
180 <wsdl:output>
181 <soap12:body use="literal"/>
182 </wsdl:output>
183 </wsdl:operation>
184 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
185 <soap12:operation soapAction="urn:cnvPDFAutoConverterEX" style="document"/>
186 <wsdl:input>
187 <soap12:body use="literal"/>
188 </wsdl:input>
189 <wsdl:output>
190 <soap12:body use="literal"/>
191 </wsdl:output>
192 </wsdl:operation>
193 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
194 <soap12:operation soapAction="urn:isPDFAutoConverterEX" style="document"/>
195 <wsdl:input>
196 <soap12:body use="literal"/>
197 </wsdl:input>
198 <wsdl:output>
199 <soap12:body use="literal"/>
200 </wsdl:output>
201 </wsdl:operation>
202 </wsdl:binding>
203 <wsdl:binding name="PDFAutoEXServiceHttpBinding" type="ns:PDFAutoEXServicePortType">
204 <http:binding verb="POST"/>
205 <wsdl:operation name="clearPDFAutoConverterEX">
206 <http:operation location="PDFAutoEXService/clearPDFAutoConverterEX"/>

```

```
206 </http:operation location="PDFAutoEXService/clearPDFAutoConverterEX"/>
207 <wsdl:input>
208 <mime:content type="text/xml" part="clearPDFAutoConverterEX"/>
209 </wsdl:input>
210 <wsdl:output>
211 <mime:content type="text/xml" part="clearPDFAutoConverterEX"/>
212 </wsdl:output>
213 </wsdl:operation>
214 <wsdl:operation name="cnvPDFAutoConverterEX">
215 <http:operation location="PDFAutoEXService/cnvPDFAutoConverterEX"/>
216 <wsdl:input>
217 <mime:content type="text/xml" part="cnvPDFAutoConverterEX"/>
218 </wsdl:input>
219 <wsdl:output>
220 <mime:content type="text/xml" part="cnvPDFAutoConverterEX"/>
221 </wsdl:output>
222 </wsdl:operation>
223 <wsdl:operation name="isPDFAutoConverterEX">
224 <http:operation location="PDFAutoEXService/isPDFAutoConverterEX"/>
225 <wsdl:input>
226 <mime:content type="text/xml" part="isPDFAutoConverterEX"/>
227 </wsdl:input>
228 <wsdl:output>
229 <mime:content type="text/xml" part="isPDFAutoConverterEX"/>
230 </wsdl:output>
231 </wsdl:operation>
232 </wsdl:binding>
233 <wsdl:service name="PDFAutoEXService">
234 <wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpSoap11Endpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceSoap11Binding">
  <soap:address
location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpSoap11Endpoint"/>
  </soap:address>
  <wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpSoap12Endpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceSoap12Binding">
  <soap12:address
location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpSoap12Endpoint"/>
  </soap12:address>
  <wsdl:port name="PDFAutoEXServiceHttpEndpoint" binding="ns:PDFAutoEXServiceHttpBinding">
  <http:address
location="http://10.10.10.10:9090/autoexsoap/services/PDFAutoEXService.PDFAutoEXServiceHttpEndpoint"/>
  </http:address>
  </wsdl:port>
  </wsdl:service>
</wsdl:definitions>
```